

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200784		
法人名	社会福祉法人 常緑会		
事業所名	星空の都 グループホームふるさと	ユニット名	東館
所在地	宮崎県都城市豊満町2642-1		
自己評価作成日	令和6年9月10日	評価結果市町村受理日	令和6年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

星空の都グループホームふるさととは、都城市の特別養護老人ホーム星空の都なかごうの敷地内にある。ホールや居室内からは、南側に金御岳の山々からその山裾に広がる田園風景が眺めることや少し方向を変えると霧島山も眺める事の出来ることから、朝の散歩や窓からの風景を眺めることによって日本ならではの四季を味わっていただいている。地域との交流も大切にしており、新型コロナウイルスの流行後は制限がかかった状況で狭くなった地域交流も最近では徐々に回復しており、地域の行事に出かけたり、ご家族との面会なども制限なく行うことでご家族との時間を大切にし支援させていただいている。また、入居者一人ひとりの『役割』や『生きがい』に対しての支援を大切にしており、現在は『〇〇のために』という入居者の思いを大切にし、お食事を一緒に作るなど、残存能力を活かし一人ひとりの力を発揮できるような支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホームと同じ敷地内にあり、それぞれの施設建物が広々とした環境の中に点在している。認知症デイサービスも併設されており、職員の協力体制、利用者同士の交流等が日常的に行われている。敷地の周りは、耕作地で囲まれており、四季折々の農作物が栽培されていて、入居者は季節が感じられる環境で暮らしている。入居者の外出や外泊を制限することなく、面会や来訪者との交流も自由に行われるようにして、家族や馴染みの人と過ごす時間を大事にする取り組みが行われている。食事は、特別養護老人ホームの栄養士が作った献立を基本にしなが、グループホームで作ることで、行事や入居者の希望等に応じて変更することが可能で、入居者と一緒に考えて作って食べる事を楽しめるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	数年前に職員で作成した理念を掲げている。年1回研究発表があり、その場でも理念に基づいた課題の抽出をしており実践につなげている。	法人内のグループホーム部門の理念「一人一人にあった生活の支援」を共有し、実践につなげている。理念の実践につながる年度毎の研究課題を決め、年度末に研究発表をして、実践の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内に当事業所のほか、特別養護老人ホーム、通所介護、認知症対応型通所介護など複数の事業所があり、自事業所利用前に通所介護を利用されていた方も多く、会いに行くことや、地域の行事への参加も行っており日常的に交流している。	地区公民館の行事等の情報を、公民館長や民生委員に教えてもらい、可能であれば参加するようにしている。地区の文化祭では、作品を展示してもらい入居者が見学に行けるよう計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での取り組み状況報告やご家族や地域の看護学校、福祉系学校の実習生受け入れなどを通して認知症の人の理解や支援方法などお伝えする機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催する運営推進会議で構成員からの助言をいただき、サービスに活かしている。(地域の催しなども情報共有行っている)	家族代表は、意見が出しやすいように2名ずつ毎回交代で出席してもらっている。家族の方から、不審者が侵入した時のためにさす股を常備したほうがいいとの助言があり、さす股が設置されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へ報告する事項は報告、市町村主催の集団指導には参加しており情報収集、共有を行っている。	事故報告等の報告事項があるときは直接市の担当者に伝えている。相談したいことや法改正等で分からないことがあるときは、市の方針により、メールを活用して担当者で連絡を取り合えるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年に2回以上行っており、職員への周知と委員会への参加を行っている。また、不適切ケアがないかなど月1回の職員会議で話し合う機会も設けている。	入居者が思いのまま動けるようにしており、外に出ようとするときは一緒に付いて行くよう取り組んでいる。外に出る入居者がゆっくり移動するように、途中に花を植えて気を引くようにするなどの工夫をしている。言葉による拘束などについては、個別に面談したり、職員会議で話し合うよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての職場内研修年を2回以上行っており、委員会にも参加、外部研修も積極的に受講している。また、外部研修においては復命書の閲覧にて職員に周知している。		

自己	外部	項 目	自己評価	東 館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については機会があれば研修への参加や同敷地内の特別養護老人ホームの生活相談員と意見交換など行っており、個々の必要性を関係者と話し合う機会も設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約や法改正、改定時の説明を行い、同意をいただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族の参加は毎回1ユニットごとに代表のご家族に参加していただき、毎回別のご家族に参加いただいている、その場でも利用者、ご家族の立場から意見やご要望がいただけるように1家族ではなく2家族以上に参加いただき意見を伝えやすいよう配慮している。		居室から外の景色が見えないので、木の枝を切つて欲しいとの家族からの要望があり、枝を切り見通しが良くなるよう対応している。新規の入居者の家族が気にする面会や外出、外泊の制限をなくし、いつでも希望に応じた対応できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の参加も行っているが、人手が足りず管理者のみの参加になることもある。職員が参加する際は、意見が話せる機会を設けている。		月1回の職員会議や年1回の面談で、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。重度化し立位がとれない入居者の介護の負担を軽減させる用具の要望を、管理者が代表に伝え、特殊浴槽、スライディングボード・シート等の導入が実現されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を整備するために月1回の会議を設けている。人員不足もあり残業時間も発生しているが、手当の支給や職員がやりがい持てるように研修も希望者に適切に受講ができるよう整備している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修は都度教育委員会で年間の計画を立て、キャリア別の研修や新人研修の制度を整えている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同敷地内に自事業所他様々な事業所があり、意見交換や一緒に研修に参加する機会を設けている。意見交換や相談などできるように交流の機会を設けている。			

自己 外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居の際ご本人、ご家族の意見を聴き、どのような生活が送りたいのか、困っていることなどをヒアリング、観察しながらケアしている。面会に関しても制限せず、お互い安心につながるようご家族からの協力もいただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの困りごとやご要望も話しやすいように面会時は近況報告を行い信頼関係を築けるように配慮している。ご家族の要望と利用者本人の意見の相違もあるので、職員も仲介に入りできるだけズレのないように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、多職種との連携、専門職との連携をとりながら優先順位を考え、ご本人、ご家族と密にやり取りしながらケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアをされる側、する側という関係性ではなく、ともに生活するもの同士の関係を大切にしてケアをしている。料理(食事づくり)も職員に料理の調理法を教えていただく機会もたくさんあり、役割支援も積極的に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族も利用者の立場という一方で、職員とご家族で協力し、利用者を支える支援も心がけており、ご家族の思いを理解しつつ面会の機会をたくさん作っていただくことや一緒に外出していただくなど協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同敷地内に自事業所以外の事業所があり、入居前に同敷地内の事業所(通所介護等)を利用されていた方も多く、その時のなじみの友人などもいらつしやるので、交流する機会を作っている。	面会や外出、外泊を制限せず、馴染みの人と過ごす時間を楽しめるよう支援している。毎週土曜日に家族と公園などに出かけて食事をしたり、毎月面会に来る友人と居室で一緒にご飯を食べたりできるようにして、本人と馴染みの人との関係が続けられるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のペースに合わせながら他者との交流を持つ機会を作っている。一緒に料理をされたり、談話する機会があり、互いに関係性を築いていることもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されてからもご本人やご家族との交流もあり、ご親族のサービス利用についてのご相談などもお受けしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族のご意向を優先してどのようにケアしていくかを月1回の会議で話し合いを行っている。ご家族とご本人のご意向にズレがある際も話し合いの機会を設けており、本人本位のケアに近づけるように検討している。		本人、家族の思いや意向を、会話や表情等で把握するように努めている。入居者の過去の職歴などから得意なことを把握し、弁当作りや領収係、箸袋の「おてもと」の文字書きなど、本人自らの希望によりできることに参加してもらうよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生活してきた生活歴や本人の価値観なども把握し、ケアに反映できるように検討し、ケアの実施を行っている。環境の変化が悪影響にならないように、なじみの環境整備を行った。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	多面的に観察し、暮らしの現状と、以前の暮らしなども把握しケアに努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際や月1回の会議の際にご本人の状況やご家族の要望、職員の意見など反映し立案している。多職種と連携をとり介護計画を作成している。		毎月の職員会議で、入居者の状況を共有し、3か月毎の介護計画見直しでは、対象者について、家族の要望等を踏まえ、会議で話し合い介護計画を作成している。本人、家族の意向確認は、本人と家族が同席だったり、別々にするなど、当事者の希望に応じた対応が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に関しては、計画書に沿っての記録や医療連携用の記録を作成し共有している。月1回の会議は、日頃職員全員で集まる機会が作れないこともあり、実施している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化やご本人、ご家族の状況に合わせて、ケアの見直しや追加など行っている。そのためには、ご本人、ご家族の状況把握を密に行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報提供していただいた地域の催しへの参加や以前、自宅で生活していた際に通っていた場所などの把握をし、出向くことや、障害者支援の就労支援の事業所とのコラボ企画でカフェ実施など行い、協働。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医の回診が毎週木曜日に実施される。その際に日々の状況や定期処方、診察を行っており、看護師や医師と医療連携行っている。		かかりつけ医の受診時は、職員が付き添い、受診の結果を共有するように努めている。家族の希望があれば、嘱託医による回診時に同席してもらい医師から直接診断結果が聞けるよう取り組んでいる。毎週、歯科口腔外科の往診もあり、歯や口腔ケア等に関する医療的支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は訪問看護ステーションの看護師と連携を図っている。日中、夜間共に、状況に合わせての報告、連絡、相談を行うこと、毎週木曜日に訪問した時に申し送りを行っており、急変時の対応や、急変時当敷地内の特別養護老人ホームの看護師にも応援をもらっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院であり、医療との連携や関係性は作っている。入院はあまり多くはないが、早期入院、治療行い、環境の変化で悪化しないよう、早期退院できるようにケースワーカーとの連携を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては入居時や年1回どのように生活していくかの希望をうかがっている。また、最期までグループホームで生活していきたい方や、医療の充実した場所へ行きたいと話される方もいらっしゃるので情報提供など行っている。		入居時に重度化した場合や看取りに関して説明し、確認書をもらうようにしている。入居後は、年に1回、重度化や看取り等に関する意向の再確認を行い、終末期の対応が適切に行われるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置しており、使用方法についても研修を行っている。また、急変時の連携についても話し合いを行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は地震や台風が発生し、より身近に避難や協力体制を再度確認する機会もあり、連絡網の確認や地震発生時に職員の出勤体制、台風時の出勤者確保なども確認した。		特別養護老人ホームとの総合避難訓練を年に2回行い、火災発生場所による避難経路の確認やAEDの使い方体験など、訓練が実践にいかせられるよう取り組んでいる。職員の通勤経路を確認し、災害時、通勤困難となることを想定し、敷地内施設の連携、職員の連絡体制の見直し、確認が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のペースに合わせたケアを大切にしており、価値観や性格など考慮し、言葉かけを行っている。		職員を妹と思っている方、旧姓での呼びかけを希望される方など一人ひとりの思いに合わせた対応に努めている。居室は、内側から鍵がかけられるようになっており、鍵をかける習慣がある入居者の部屋に入るときは、ノックをして開けてもらってから入室するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	現在東館は在籍が長い方もいらっしゃるから重度化している。意思疎通が難しくなっている方意思決定が難しい方もいらっしゃるが、できるだけ、意向にあわせてケアの提供ができるよう、選択できるように声かけ、ケアをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足も深刻化しており、個別ケアについてどうしても土日、祝日が提供にムラがある現状である。しかし、できるだけ、個々に合わせてケアの提供を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を染めたいと話される方にはカラーリングなど月1回訪問理容を利用している。また、洋服もできるだけ、ご本人の好みや気分に合わせて声かけをさせていただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事提供時間は決まってはいるが、個々の生活スタイルに合わせて提供したり、嗜好に合わせてメニューの変更を行い、食事を楽しく、おいしくできるように提供している。時には行事食や選択食など楽しみの工夫を行っている。		特別養護老人ホームの栄養士が作った献立を基本に、両ホームの台所で調理し、グループホームならではの食事の提供が行われている。材料を見てメニューを変更したり、誕生日の人が食べたいものに変更することもある。入居者が、菜園の野菜を収穫をしたり魚をさばいたり、できることでの参加を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	幸い、同敷地内に特別養護老人ホームがあることから、状況によっては管理栄養士へ相談し助言をもらっている。糖尿病の現病ある方もいるので、バランスを考えた食事提供を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修に積極的に参加しており、入居者の中には自歯、義歯の方様々いらっしゃるが清潔にケアできるよう、口腔ケアの種類、方法も個々に併せて行っている。毎週水曜日歯科往診あり、必要時は助言をいただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ排せつの失敗ないよう、羞恥心への配慮を行い、ケアしていけるよう、24時間の排泄表を用いて排泄状況の把握、排便については看護師とも連携をとりながら自立に向けたケアを行っている。		本人からの訴えやそわそわする様子を見て、トイレ誘導、排泄介助を行い、失敗をなくし排泄用品の使用を減らせるよう取り組んでいる。布パンツを利用している人も数名いる。夜間は、ナースコールでトイレでの排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便については、看護師と医師との連携で下剤の調整や水分量や食材についての検討を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は日中の入浴になってしまっている。グループホームの浴槽は個浴スタイルであるが、東館は重度化していることで個浴槽に入れない入居者も多い。なので、特浴槽ストレッチャー導入している。		週2回の入浴を基本に、汗をかいた時や本人希望に応じて、入浴の介助を行っている。入浴剤やトリートメントなど、希望に合わせて対応している。入浴嫌いの人に好きな音楽をかけて入浴してもらうよう工夫したり、ゆず湯など季節感を楽しめるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人で自室で好きな時間に休息をとられる方に対して空調の調整などを行い、快適に過ごせるような配慮や様子を伺い、休息が取れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々のバイタル測定や状況に合わせて看護師や医師と連携を図っている。減薬調整や服薬介助の際飲みにくい薬などは医師へ相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分で掃除機を使って自室の掃除をされる方や、洗濯物をたたむことを役割とされていたり、気分に合わせて料理される方もいらっしゃる。その際はお願いしたり役割支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ふらっと一人で散歩に行かれる方や、ご家族が畑を作っていたりの方は、畑の様子を見に行くなど出かける機会を作っている。		日常的に庭の散歩をしたり、菜園の野菜の収穫をしたりして戸外に出られるように支援している。敷地内の桜や桃の花が咲く季節には花見をしたり、近くの公園のコスモスの花を見に車で出かけたけりして外出の支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	東館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を管理している方はいらっしゃらないが、小遣い程度所持されている方は1名いらっしゃいます。使う事より、持っていることが安心感につながっているので、確認を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいらっしゃるご家族が事業所へお電話くださり、話をされたり、1名の方は携帯電話を持っておられ、好きな時にご家族とお電話されている。充電はこちらで行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ解りやすい配置にしている。玄関、勝手口など出入りできる場所はあるが、帰ってきたときにどこかわからなくなるので、出入り口は玄関で対応している。		東館、西館それぞれの作りに合わせて、特徴を生かし、家庭用の食器棚や冷蔵庫などで家庭的な雰囲気を作り、ソファやテーブル等も入居者が利用しやすいように配置されている。観葉植物や入居者の作品等の飾り付けで、居心地のよい環境が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは他者がいることでゆっくりできない方は自室、共有スペースでみんなと一緒にテレビや映画を見られる方もいらっしゃる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に自宅から持ってきた冷蔵庫やソファを設置されている。ご自分で管理しておられ、好きな時に何か飲んだりと自由に過ごされる空間を作っている。		自宅で使い慣れたものや好きなものの飾り付けなどが、本人の意向に沿って居室内に配置され、居心地よく暮らせる部屋作りが行われている。トイレ付や畳の居室もあり、本人の状態や希望によって選択できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけご自分でできることはしていただけるようにトイレの位置を示したり、センサーマット使用し、不安定ではあるが、怪我無く自分で歩行しトイレまで行けるよう付き添えるような配慮を行っている。			